地産地消を長年推進

北上食品が優良表彰受賞

「食材王国みやぎ推進優良活動表彰式」は１月26日、仙台国際センターで開かれ、北上食品工業(飯塚哲朗代表取締役)が地産地消部門で特別賞を受賞しました。

同表彰は、地産地消の推進やブランドの確立に取り組む団体や法人、個人の功績をたたえるもの。北上食品工業は、市内産の原材料を使用した油麩や納豆、豆腐などを製造・販売しています。飯塚代表は「長年の取り組みを評価してもらいました。地元食材使用の大きな強みは、生産者の顔が見え、出来を聞きながら加工を調整できること。今後も地産地消の推進に取り組んでいきます」と思いを語りました。

遠藤信哉副知事から表彰状を受け取る飯塚代表取締役。北上食品工業の製品は、市内の学校給食でも提供されています。

園芸技術向上に寄与

たゆまぬ努力が実り受賞

「第３回みやぎ園芸振興大賞及び令和２年度宮城県農林産物品評会農林水産大臣賞受賞報告」が令和２年12月28日、市役所迫庁舎で開かれました。

みやぎ園芸振興大賞は、水田を活用した大規模な露地野菜栽培のモデル的な取り組みを評価するものです。今回はキャベツ、葉菜類を栽培する櫻井農場(櫻井利光代表取締役)が受賞。宮城県農林産物品評会農林水産大臣賞は、品種の特性を備え、大きさが均一で色つやの良好な出品物を評価します。果実(りんご)部門では猪股剛さん＝中田町大泉＝、果菜類(きゅうり)部門では久保園芸(久保泰宏代表取締役)が受賞しました。

左から櫻井代表取締役、猪股さん、熊谷市長、久保代表取締役。それぞれ受賞の喜びを伝えました。

東京五輪に向け交流

ポーランドの文化を学ぶ

市ホストタウン事業「ポーランドについて学ぼう」は１月28日、北方小学校で開かれ、４年の児童28人がポーランド共和国の歴史や文化などの授業を受けました。

ホストタウン事業は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に参加するポーランドボートチームの事前合宿の受け入れを契機に、地域の活性化や末永い交流などを実現するため実施。有名な場所や食べ物、学校生活などの話に、児童たちは目を輝かせて聞き入っていました。千葉凛君は「いろんな話を聞けて楽しかった。お米を使ったデザートにびっくりしましたが、いつか行って食べてみたい」と笑顔で話していました。

事前合宿コーディネーターのベリチンスキー・クリストフ氏がリモートによりポーランド共和国を紹介しました。

右肩上がりの年願い

オリジナルポスター寄贈

迫町下舟丁出身の書家・デザイナーの日野薫さんが１月19日、市役所迫庁舎を訪れ、自らがデザインした干支のポスターを市に寄贈しました。

ポスターは白地に赤い円と、金で描かれた漢字の「丑」、黒で描かれたひらがなの「うし」を重ねたデザイン。日野さんは「世間の情勢から、厳しさの中にある潔さをイメージして作りました。『し』の字は右肩上がりを連想してもらえるよう力強く描いています」と作品に込めた思いを語りました。熊谷市長は「明るさを感じるとても良いデザイン。今年はこのポスターを見ながら頑張ります」と感想を述べました。

ポスターを寄贈した日野さん(左)。ポスターは市役所迫庁舎の入口に掲示しています。

ゆるキャラ緊急会議

出番なしの現状打開図る

「県北ゆるキャラ緊急会議！」は１月29日、県大崎合同庁舎で開かれ、県北７地域のゆるキャラたちが地域の観光振興について話し合いました。

会議は「東北デスティネーションキャンペーン」(４月１日～９月30日)実施に先立ち、コロナ禍で観光客が減少している中、県北の魅力をどのようにＰＲできるのかを話し合うことが目的。マスク姿のゆるキャラたちが各地域の見どころを紹介し、より多くの人に届く情報発信の方法について話し合いました。また、イベント時の検温や三密を避ける工夫などのコロナ対策を盛り込んだ新しい観光に向けて意見が交わされました。

はっとン(左から２番目)は、郷土料理「はっと」について名前の由来などを紹介。紙に書いた発言をスタッフが読み上げました。

地域で守る交通安全

死亡事故ゼロ1500日達成

「交通死亡事故ゼロ1500日達成表彰伝達式」は１月25日、東和総合支所で行われ、登米市交通安全対策協議会と登米警察署(森脇崇署長)から米川地域振興会(佐藤裕孝会長)へ褒状が授与されました。

協議会では、交通安全対策に顕著な功績があり、市民の模範となる人などを表彰。米川地域振興会は、2016年12月17日から交通死亡事故ゼロを継続しており、１月24日に1500日を達成しました。佐藤会長は「これからも関係機関と連携しながら交通安全に努め、交通死亡事故ゼロを２千日、３千日と伸ばしていきたい」と決意を新たにしていました。

米川地区では運転免許証返納後の生活に必要な移動手段を確保するためデマンド型乗合タクシー事業に取り組んでいます。